

扇大臣閣議後記者会見の概要（平成15年1月14日）

平成15年1月14日（火）

10:25～10:52

於：国土交通省会見室

閣議・閣僚懇

- 略 -

質疑応答

- 略 -

（問） 大臣、外環道のことでちょっと御確認したいのですけれども、先日金曜日の会見ですね、大深度地下を使われるということなんですけれども、あれはその33年間凍結していたことをですね、解除するというかですね、凍結をもうやめてですね、計画推進に動いていくというお考えと捉えてよろしいのでしょうか。

（答） 33年は短いでしょうか、長いでしょうか。

（問） 長いですね。

（答） 長いでしょ。私はやっぱり21世紀に入って、やっぱり20世紀の負の遺産というものは、国民と国家のために国土づくりのために一歩前進するべきだと思っています。だから、あなたも長いとおっしゃるのなら、私も長いと思っています。だから、決断するべきときだと思っています。

（問） それは凍結解除宣言というふうに・・・。

（答） まだ宣言・・・。だってそれは東京都と話し合うことですから。宣言というより、気持ちは宣言です。一歩前進するということです。

(問) 今地元の方々ですね、パブリックインボルブメントという形でですね、協議会が続いていると思うんですけども、その協議会の結論がまだ出ないにもかかわらず、そういうような形ですね、まあ大深度地下を使ってやりますよということに対しては、地元の方々からも反発が一部出ているのですけども。

(答) 私はね、反発というより最初からこれを論議すべきだということをおっしゃってますけども、メニューを出して、どういう方法で論議するかということがないと同じ33年間で生きてこないじゃないですか、私はそう思いますよ。ですから、1つのメニューだと思ってみんながこれでいいとか、悪いとか、もっとそこで議論していただければいいことですから、私はとてもそういうことで、何にも言わないで、いや1からだ、0からだとはっきり言って、何回やっても同じこと言っていたんじゃない、これ前に進みませんよね。ですから、私が言ったことで、ああそういう方法もあるのかと。我々はこれに賛成だ、反対だと大いに私は議論していただいて結構だと思います。

(問) そうすると、協議会自体は、計画の是非も含めてですね、まあ話し合っていくという前提でやっているのですけれども、それについてはそのままだと・・・。

(答) 計画の是非というのは、これはとっくに線路は前もって33年前に示してありますから。やるか、やらないかです。

(問) その点を今協議会でやっているのですけれども。そこを・・・。

(答) 協議会目途立ちそうですか。いつまで。期限がありますか？

(問) ありません。

(答) ですから、私がそろそろこういうことじゃないですかということを申し上げて、それに対して議論していただくのなら大いに結構です。

(問) 選択肢の1つとして、協議会の場で是非議論していただきたいという・・・。

(答) 今まではそんなこと言ってなかったのですから。大深度地下と誰も言ってませんから。だから、私は大深度地下でやりますよということを使ったので。みんなは初めて聞いたことで、ああそんな方法もあったのかとお思いになったんじゃないですか。だって大深度地下法って一昨年、私が通して、私のときに通した法案ですから、初の適用ですから。法案通した以上適用できますから。そういうことも1つの選択であるということを示すことが大事じゃないですか。